

科目名	家庭支援論						
科目名(英)	Family Support						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 2年生						
授業概要	保育士は「児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」専門職として児童副賞に位置付けられている。つまり、子育て支援に対しても専門的な知識や技術を有することを示す。現場に置いては、保育士がより効果的に家族を援助するために、ソーシャルワークやカウンセリングの基本知識や技術を学び、援助することが求められている。3年次の児童福祉施設実習に向け、感じる力、深く考える力を身につけ、保育士としての役割を理解していく。						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					家族援助の対象と役割について説明することができる。	
		<input type="radio"/>				家族の形態、機能、取り巻く地域社会について説明することができる。	
		<input type="radio"/>				虐待家族への支援について説明することができる。	
		<input type="radio"/>				児童福祉施設(養護系)における保育士の役割について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房 よくわかる家庭支援論【第2版】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	児童福祉施設実習について(希望調査票配布)				児童福祉施設について理解しておく	
	2	児童心理治療施設、乳児院、児童養護施設について				児童福祉施設について理解しておく	
	3	科目ガイダンス、家族援助が求められている背景と意義について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	家族の形態、多様化する家族				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	家族を取り巻く地域社会はどのように変化しているか				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	社会の変化と家族の変化				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	子どもを巡る諸問題とその背景				レポートの準備をしておく	
	8	児童虐待について				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	9	虐待家族に関わる機関・施設・サービス				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	児童相談所について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	虐待家族への支援について① 子どもへの支援				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	虐待家族への支援について② 親への支援				レポートの準備をしておく	
	13	乳児院における家庭支援について				乳児院の復習をしておく	
	14	児童養護施設における家庭支援について				児童養護施設の復習をしておく	
	15	母子生活支援施設における家庭支援について				母子生活支援施設について予習をしておく	
評価方法	(1)出席状況(居眠りは欠課とする) (2)授業参加状況 (3)レポート(2回) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		宿題・レポート					40%
		授業参加状況					30%
		出席状況					30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	言葉(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	保育において不可欠な「子どもとの関わり方」について具体的な実践方法について検討し、その内容を実践する。具体的には、複数学年による「子ども食堂」の運営を通じて実践に向けて学科内のコミュニケーションから準備するとともに、実際の現場を通じて、子どもたちとの関わりについて経験を積むことで、実践する力を身につける。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論した上で計画を立案することができる。	
		○				各学年における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた育子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目	こども食堂の計画・準備		事前に計画の概要を立案し、他の学年へ提示し準備を円滑に行うことができるようにしておく。		
	2	1日目	こども食堂の計画・準備(シュミレーションを含む)				
	3	1日目	こども食堂の計画・準備(シュミレーションを含む)				
	4	1日目	こども食堂の計画・準備(シュミレーションを含む)				
	5	2日目	こども食堂の実践(1日目の計画・準備に沿って)				
	6	2日目	こども食堂の実践(1日目の計画・準備に沿って)				
	7	2日目	こども食堂の実践(1日目の計画・準備に沿って)				
	8	2日目	こども食堂の実践に対するの振り返り・反省		2日間の運営を通して明らかになった課題に対して共有するとともに、今後の方向性を明確にすることを目標とする。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・運営		○	○	◎		70%
	グループでの協力状況				◎		30%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	カウンセリング概論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	矢野隆子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	対人援助職者の役割は大きくなってきており、社会福祉士にとって「カウンセリング」の知識、技法は資質として欠かすことの出来ないものとなってきている。信頼できる援助者としてカウンセリングの知識技法を修得するとともにカウンセリングマインドを身につけて、支援を必要とする人の立場に立って行動ができるようになることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					相談者が抱える問題の相談に対応できるカウンセリングの諸理論と方法を説明できる	
		○				カウンセリングの現場における相談者の問題に対して対応策を設定してそれを説明できる	
		○				援助者として身につけるカウンセリングマインドの重要性を説明できる	
		○				カウンセリングスキルを身につけ、相談された際にどのように対応したらよいか説明できる	
				○		他者からの助言がなくても相談者のもつ心理的、社会的側面へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	カウンセリングの原理 誠信書房 國分康孝・医療／福祉／保育のカウンセリング滋慶科学研究所・入門カウンセリングワークブック 日精研心理臨床センター編 福山清蔵						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目ガイダンス 構成的グループエンカウンター					
	2	カウンセリングの基礎基本 定義 歴史 基本的態度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	カウンセリングの基礎基本 カウンセリングのプロセス、はじめ方終わり方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	カウンセリングの基礎基本 ラポール、転移逆転移、倫理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	カウンセリングの基礎的技法 受容 共感傾聴 ロールプレイング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	カウンセリングの基礎的技法 感情の明確化、要約、質問技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	カウンセリングの基礎的技法 非言語的コミュニケーション、ロールプレイング			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	カウンセリングの理論 クライアント中心療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	カウンセリングの理論 精神分析療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	カウンセリングの理論 行動療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	カウンセリングの理論 論理療法 ゲシュタルト療法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	カウンセリングの理論 分析的心理療法 交流分析 折衷主義			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	心の病気と心理アセスメント 統合失調症 気分障害 依存症			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	心理アセスメント 行動観察 心理検査 知能検査 人格検査			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	心理アセスメントの基礎と技法 事例検討			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する (2) 授業への参加態度(グループワーク・ふり返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						90%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	グループワーク						10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない						

科目名	音楽表現(器楽・声楽)②SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	村上京子・森田ゆかり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指す。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨く。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	ピアノ 表現	歌唱 表現	演奏 技術	音楽的 理解度	自主 実行力	目標	
				○		音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。	
	○					楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。	
		○				歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。	
				○		他者からの助言がなくても、自分で解説し練習することができる。	
			○			自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各自が用意した修了コンサートの楽譜						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)				各自譜読みを進めていく。	
	2	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)				各自譜読みを進めていく。	
	3	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)				各自譜読みを進めていく。	
	4	1日目(各自修了コンサート曲・合唱)				各自譜読みを進めていく。	
	5	修了コンサート(リハーサル:ピアノ演奏・合唱)				演奏課題曲をしっかりと演奏する。	
	6	修了コンサート(リハーサル:ピアノ演奏・合唱)				演奏課題曲をしっかりと演奏する。	
	7	修了コンサート				演奏課題曲をしっかりと演奏する。	
	8	修了コンサート				演奏課題曲をしっかりと演奏する。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	修了コンサート(通し練習と本番の2回) を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		ピアノ表現	歌唱表現	演奏技術	音楽的理解度	自主実行力	評価割合
	近畿大学九州短期大学スクーリング (修了コンサート)	◎		○		○	100%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	音楽表現Ⅱ-②						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	森田 ゆかり		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科・2年						
授業概要	1・ピアノに親しみ、2年次までの2年間で表現力、テクニックを磨き、修了コンサートの成功を目指して努力する。 2・音楽の基本的な理解と、音楽活動での様々な楽器の習得を目指します。 3・歌唱や合唱を通して社会人としての基礎力(表現力・チームワーク・理解力・向上心)を磨きます。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	目標						
	○				音楽の基礎となる楽典を理解し、楽譜を正確に読むことができる。		
	○				楽譜に書かれている音を自分のものにし、表現することができる。		
		○			歌の歌詞を理解し、相手に伝わるよう表情豊かに歌うことができる。		
				○	他者からの助言がなくても、自分で解説し練習することができる。		
		○			自主練によってテクニックを磨き、技術を習得することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 音楽 声楽教本 ・みんなのコーラス ・各自用意した修了コンサートの楽譜						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	2	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	3	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	4	各自修了コンサート曲			各自譜読みを進めていく。		
	7	各自修了コンサート曲			少しずつ区切って練習する。		
	8	各自修了コンサート曲			少しずつ区切って練習する。		
	9	各自修了コンサート曲			曲想も兼ねて練習し始める。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	10	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		曲想も兼ねて練習する。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	11	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		曲想も兼ねて練習する。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	12	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		全体を通して弾けるよう進めていく。 ペダルの練習は必ず左手とセットで行う。		
	13	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		全体を通して弾けるよう進めていく。		
	14	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		全体を通して弾けるよう進めていく。		
	15	ピアノ実技小テスト			テストで出来なかった箇所の復習。 曲全体をどう弾くかの再確認。		
	16	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱曲(YELL)の歌詞を覚える。		
	17	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱曲(YELL)の歌詞を覚える。		
	18	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱曲(YELL)の歌詞を覚える。		
	19	歌唱試験(YELL) 試験終了後各自修了コンサート曲 合唱(YELL・いきものがかり)			曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。		
	20	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり) (Believe)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。		
	21	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり) (Believe)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱2曲の歌詞を覚える。		
	22	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり) (Believe)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習す		
	23	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり) (Believe)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習す		
	24	各自修了コンサート曲	合唱(YELL・いきものがかり) (Believe)		曲全体が仕上がるよう進めていく。 合唱の音程の確認。表情豊かに歌えるよう練習す		
	25	近畿大学九州短期大学スクーリング・(修了コンサートゲネプロ)			今日出来なかった箇所の復習。 本番へのイメージトレーニング。		
	26	近畿大学九州短期大学スクーリング(修了コンサート)					
	評価方法	(1)ピアノ実技小テストを1回実施する。(2)歌唱試験を1回実施する。 (3)修了コンサート(ゲネプロと本番の2回) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		ピアノ表現	歌唱表現	演奏技術	音楽的理解度	自主実行力	評価割合
		小テスト		○	○		10%
		歌唱試験	◎		○		25%
		近畿大学九州短期大学スクーリング (修了コンサート)	◎	○		○	65%
履修上の注意	出席が17回に満たない場合は、定期試験、及び発表の受験資格を与えない。						

科目名	交流ゼミⅡ-②					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科2年生					
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				
	2	グループ内でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	グループ内でのレクリエーション				
	5	グループ内でのレクリエーション				
	6	グループ内でのレクリエーション				
	7	社会福祉科「社福祭」に向けての準備				
	8	社会福祉科「社福祭」に向けての準備				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験					
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品					
評価方法						
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					

科目名	子どもの食と栄養SC					
科目名(英)	Schoolig of Child Nutrition					
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	大仁田 あずさ	
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	社会福祉科 2年					
授業概要	授業科目「子どもの食と栄養」で学んだ内容を踏まえて、年齢や発達段階に沿った食事を作成する。また、その作成の過程を通して、保育における食育の意義や特別な配慮を要する子どもの食生活の現状と対応について理解を深める。					
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		保育者として、子どもたちに正しい食育を実践するために、自身が豊かな食生活を実践することができる。
	○					保育における食育の意義を踏まえ、その内容を実践することができる。
				○		乳児期、幼児期、学童期・思春期の各時期における栄養・食生活の情報をもとに、その状況に沿った食事を準備・提供することができる。
				○		食物アレルギーを正しく理解することにより、給食での安全な対応を行うことができる。
	○					食事を準備・提供する過程で、「食」の本質について理解することができる。
テキスト・教材 参考図書	二見大介、高野陽 編著 『子どもの食と栄養』 北大路書房					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	1日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	1日目 調理実習後の振り返りとまとめ				
	5	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	2日目 調理実習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	2日目 調理実習後の振り返りとまとめ				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	調理実習に臨む姿勢・態度				◎	
	事後レポート	○	◎			
	出席状況				◎	◎
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。					

科目名	子どもの保健 I ①						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	子どもの健康と保育を考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		こどもの年齢別の成長について理解する	
	○	○		○		体の名称を覚える	
	○	○		○		こどもに多い疾病を知る	
	○	○		○		現場で生かせる知識を身につける	
	○		○			応急処置のロールプレイ	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる子どもの保健(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	子どものための保健活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	子どものための保健活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	身体発育と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	身体発育と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	生理機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	生理機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	運動機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	運動機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	精神機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	精神機能の発達と保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	子どもの精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	子どもの精神保健			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	子どもの生活と健康			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	子どもの生活と健康			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	定期試験						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		◎		80%
	小テスト	○	○		○		10%
	宿題・レポート						5%
	発表・作品			△	◎		5%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名	社会保障					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	社会福祉科 2年					
授業概要	社会福祉士が相談援助を行う際に必要な社会資源及び諸制度等は社会保障制度に付随しているものである。社会保障制度を活用は必須条件であり、幅広い分野の知識を獲得する必要がある。この科目では、全体像の把握だけでなく各分野の制度の成り立ち、変遷も学んでいく					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				社会保障制度の概要について説明することができる
		○				社会保障に影響を与える日本情勢及び環境要因を説明することができる
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	社会保障の理解				
	2	社会保険と社会扶助の理解				
	3	社会保障の成立と福祉国家				
	4	日本の社会保障の範囲				
	5	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦前				
	6	日本の社会保障の変遷(へんせん)-戦後				
	7	高度経済成長期の社会保障				
	8	安定成長期の社会保障改革				
	9	バブル期以降の社会保障				
	10	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-家族の変化				
	11	国民生活の変化に伴う社会保障への影響-ライフステージの変化				
	12	社会保障給付費からみた日本の社会保障の大きさ				
	13	社会保障給付費の推移				
	14	社会保障の財源				
15	全体のまとめ					
評価方法	(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験		◎			
	発表・作品				◎	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。					

科目名	就職実務 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	若狭 恵美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感のもてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「就職」を考える			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	2	就職環境を知ろう①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	3	就職環境を知ろう②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	4	自己分析とキャリアプランニング①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	5	自己分析とキャリアプランニング②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	6	仕事のことを研究しよう①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	7	仕事のことを研究しよう②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	8	自己表現①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	9	自己表現②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	10	企業・施設アプローチ①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	11	企業・施設アプローチ②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	12	就職研修①			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	13	就職研修②			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
	14	就職研修③			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと		
15	就職研修④			就職ガイドブック該当部分を読んでおくこと			
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	出席が2/3未満の場合は評価対象外となる。						

科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	原田 剛		
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 2年								
授業概要	障害について考え、障害者がどのようなサービスや制度を必要としているのかを学ぶ。障害を理解し、制度を理解することの重要性を学び現場に必要な知識を身につける。 ①障害者の生活について理解する ②法律、制度等を理解する。 ③実際の支援について学ぶ								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				障害者福祉に関する法律制度等の概要を理解する。			
	○	○				福祉専門職(社会福祉士等)の役割や実際の業務等を理解する。			
				○		課題発表、グループワーク等を行い、障がいのある方の支援について理解を深める。			
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版:障害者に対する支援と障害者自立支援制度</li> <li>ミネルヴァ書房:よくわかる障害者福祉</li> </ul>								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	障害者を取り巻く社会情勢				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	障害者の生活実態				レポート課題について調べる			
	3	障害について考える・レポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	障害にかかわる法体系				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	障害にかかわる法体系				レポート課題について調べる			
	7	法律、制度等に関するレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	障害者自立支援制度①(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	障害者自立支援制度②(障害者総合支援法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	組織機関の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	専門職の役割と実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	障害者にかかわる専門職の価値・倫理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	多職種連携・ネットワーキング				レポート課題について調べる			
	14	障害者支援の現状と課題についてレポート課題発表				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
15	障害者支援における事例検討とサービス利用について/定期試験対策				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法	①授業の中で小テストを4回実施。 ②レポート課題を3回(内容と発表で評価を行う) ③授業中に実施する小テストとレポート課題(提出・発表) 定期正試験で総合的に評価する。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎				50%		
	小テスト		◎				30%		
	課題レポート				◎		10%		
	発表				◎		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	図画工作SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	屏賀 一男		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	授業科目「図画工作Ⅱ」の内容を踏まえて、保育士としての実技基礎技術を実践する。その作品の作成・片付けの課程を通して、保育現場での子どもたちとの関わりや保育者としてのあるべき姿勢についての理解を深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		自己表現する能力を深めることで、豊かな感性と人間性を身につける事ができる。	
	○			○		個性的な表現力のために、思考能力を発揮し、自己の又草・言葉で説明できるようになる。	
	○					明確な狙いを持って、保育現場で実践することが可能な教材を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学 図画工作						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	2	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	3	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	4	1日目	保育現場で使用することが可能な絵本の作成			制作部品を考案する。	
	5	2日目	絵本の作成の続きと発表のリハーサル			1日目の作品の内容を踏まえて発表のシミュレーションを行う。	
	6	2日目	作品の発表				
	7	2日目	作品の発表				
	8	2日目	全日程の振り返りとまとめ			今回のスクーリングの内容・課程を踏まえ、レポートを作成する。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎		◎		70%
	レポート	◎	○		◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	相談援助SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科 2年制						
授業概要	社会福祉士に向けての相談援助実習の振り返り						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					相談援助実習の自己の振り返りをしつかりと行う上で、文字・言語で表現することができる。	
				○		自分自身が臨んだ結果に対して、真摯に向き合うことができる。	
				○		積極的に参加し、クラスメイトの発表に対して、真摯に傾聴することができる。	
テキスト・教材 参考図書	相談援助実習日誌(各個人分)、振り返りシート						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目(相談援助実習Ⅰの振り返りシートの記入)					
	2	1日目(相談援助実習Ⅰの振り返り・クラス内での共有)					
	3	1日目(相談援助実習Ⅰの振り返り・クラス内での共有)					
	4	1日目(相談援助実習Ⅰの振り返り・クラス内での共有)					
	5	2日目(相談援助実習Ⅱの振り返り・振り返りシートの記入)					
	6	2日目(相談援助実習Ⅱの振り返り・クラス内での共有)					
	7	2日目(相談援助実習Ⅱの振り返り・クラス内での共有)					
	8	2日目(相談援助実習Ⅱの振り返り・クラス内での共有)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングへの参加態度(自主的に参加する積極的な姿勢)を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	各自の振り返りの発表	◎					80%
	質疑応答への参加				◎		20%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	相談援助実習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	184時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	国家資格「社会福祉士」の受験資格に向けての現場実習である。実際に、高齢者福祉施設または障害者福祉施設での経験を元にソーシャルワークの現状を理解するとともに、ケアマネジメントの一連の流れと支援の現状を重ねることで、あるべき相談援助について深く考えることを目指し、今後の自身の課題を発見しそれに対して取り組むことができることを目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					施設の概要、施設の日・一週間の流れ、利用者の概要について理解することができる。	
		○				「ソーシャルワーカー」の職務・役割について考え、現場のプロフェッショナルの状況から理解を深めることができる。	
				○		自身の目指すべき支援者の方向性とあるべき本来の姿を見出すことができる。	
				○		知識や技術にとらわれることなく、人間性を中心として積極的に利用者様や職員様と関わることで、自身の課題を見出すことができる。	
	○	○				ケアマネジメントの仕組みと流れの見地から、実際の支援現場について理解を深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1～5日目 相談援助実習 I (5日間)			事前に実習先の施設についての情報をまとめておく。		
	2	6～14日 相談援助実習 II					
	3	帰校日指導			実習日誌を持参するとともに、これまでの実習中の状況を振り返っておく。		
	4	15～23日 相談援助実習 II			帰校日指導時の状況を踏まえて、その後の実習状況について振り返り、レポートをまとめておく。		
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習への参加状況				○	○	50%
	日誌の記入状況				○		50%
履修上の注意	出席率が90%未満の場合は、相談援助実習に臨むことを不可とする。 また、実習中に3日以上を欠席した場合は実習を中止とする。						

科目名	保育実技						
科目名(英)	childcare practical						
単位数	2単位	時間数	30.時間	担当者	眞崎 明日香		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	1年次の保育実技で学んだ表現の基礎に加えて指導案を立案する技術や表現の幅をさらに広げていく。さらに実践保育を見据えて自らが考えて試行錯誤したりそれぞれがアドバイスを送って研鑽しあうことでチームワークを高めていく。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				日常的な手遊びやわらべうたを習得し月齢や場に即した工夫をすることができる。	
			○			乳児の生活に沿った知識技術を学び、乳児が安全に心地よく生活できる関わりを行うことができる。	
		○				指導計画の立案における知識技能を学び、指導案に沿った実技を行うことができる。	
				○		与えられた課題に対して自ら考え意欲的に学び、試行錯誤し表現することができる	
				○		発表者の実技や案をしっかりと傾聴、鑑賞し意見を申し合って研鑽することができる。	
テキスト・教材 参考図書	永岡書店 手遊びうたブック ナツメ社 保育で使えるワクワク手袋シアター ナツメ社 わくわく・楽しいパネルシアター ナツメ社 0～6歳子どもの発達と保育のコツ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	乳幼児(0～2歳)の遊び わらべうた 公園引率の準備			筆記具を用意する		
	2	安全管理と戸外保育について(東領公園)			東稜公園に出て危険箇所や安全管理を学ぶ 動きやすい恰好で参加		
	3	部分保育の計画と立案(手遊び+絵本、紙芝居)			立案をもとに発表日まで各自練習すること		
	4	部分保育発表(①～③) パネルシアター作成			パネルシアターについて調べておく		
	5	部分保育発表(④～⑥) パネルシアター作成 色塗り			提出に間に合うようにすすめておく		
	6	部分保育発表(⑦～⑨) パネルシアター作成、仕上げ			簡単な発表を含む		
	7	部分保育発表(⑩～⑫) 乳幼児の生活習慣を学ぶ 着替え 排泄			赤ちゃん人形を用いて行う 事前にはからだのつくりなど知っておくこと。		
	8	部分保育発表(⑬～⑮) 乳幼児の生活習慣を学ぶ 睡眠 調乳			教科書の該当範囲を読んでおく		
	9	部分保育発表(⑯、⑰) 発表の振り返り、意見交換			この日までに廃材を集めておく。ペットボトル、キャップ、パック、包装紙など		
	10	廃材から見立てた手作り玩具を作ろう			廃材からどのようなおもちゃにしようか考えておく		
	11	教材制作に向けて導入、実技の指導案作成 教材制作①			事前に何をやるか考えておく		
	12	教材制作② ペープサート、パネルシアター、手袋シアターなど			必要な材料を揃え、準備しておく		
	13	教材制作③ ペープサート、パネルシアター、手袋シアターなど			必要があればここまでにある程度進めておく 終了次第練習		
	14	保育実技教材最終発表			一人3～5分で用意する。練習を済ませておく		
15	保育実技教材最終発表			振り返りをふくむ			
評価方法	(1)授業内で制作した作品、指導案、振り返りレポートの提出 (2)発表を通しての表現力 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		◎		40%
	発表・作品		◎	○	◎		60%
履修上の注意							

科目名	保育実習 I (保育所)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年						
授業概要	保育士資格を取得するために保育所で行う実習。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①保育所における1日の流れ ②子どもへの理解を深める ③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	10 日間	<p>保育所実習では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の内容、機能について理解する (保育所の1日の流れやプログラムの理解など)</li> <li>2. 保育所における子どもの理解 (年齢(月齢)ごとの子どもの発達とその特徴など)</li> <li>3. 保育所における保育者の職務内容、役割などを理解する</li> <li>4. 日誌や指導案の書き方を学ぶ</li> </ol> <p>担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること</p>			<p>・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする</p> <p>・各自の実習のねらい、課題を明確にする</p> <p>・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする</p>		
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		提出物	○		◎		50%
		実習園の評価	○	○	◎		30%
		勤務状況等			◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						



科目名	保育実習事前事後指導 I (保育所)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	8時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	保育実習指導を踏まえて、保育事前実習の経験した結果から得られた自身の課題を明確にして共有することで、今後の保育実習(単位実習)にむけての課題解決を図る指針とするとともに、日常生活における自己のあり方を再考し実践することを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					保育事前実習で得られた経験をしっかりとまとめて理解・伝わるように表現・発表することができる。	
		○				保育現場における課題を明確にすることができる。	
				○		保育事前実習を通じて得られた、自己の課題を発見し見つめ直すことで保育者・人としてのあるべき姿について再考することができる。	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「保育課程総論」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	保育事前実習の内容の振り返り(各自でまとめる)			保育事前実習の振り返ることで、自身の課題や今後の展望についての考えを事前にまとめておく。		
	2	保育事前実習の内容の振り返り(各自でまとめる)					
	3	保育事前実習の内容の振り返り(各自でまとめる)					
	4	2日目 クラス内の発表内容の共有と保育実習(単位実習)に向けての準備			事前実習における自身の課題を明確にするとともに、単位実習や今後の日常生活における課題解決にむけての方向性を明確にする。		
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	振り返りの発表	○			◎		50%
	レポート	○			◎		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	保育内容総論SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	保育実習指導を踏まえて、保育事前実習の経験した結果から得られた自身の課題を明確にして共有することで、今後の保育実習(単位実習)にむけての課題解決を図る指針とするとともに、日常生活における自己のあり方を再考し実践することを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					実習指導・保育事前実習で得られた経験をしっかりとまとめて理解・伝わるように表現・発表することができる。	
		○				保育現場における課題を明確にすることができる。	
				○		自己の課題を発見し見つけ直すことで保育者・人としてのあるべき姿について再考することができる。	
		○				保育単位実習にて行う「設定保育」について綿密に準備しシミュレーションを重ねることで、本番に向けての課題を明確にすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「保育課程総論」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目 設定保育の発表の準備(各自でまとめる)				自身の課題や今後の展望についての考えを事前にまとめておく。	
	2	1日目 設定保育の実践及びシミュレーション(クラス内で発表・共有)					
	3	1日目 設定保育の実践及びシミュレーション(クラス内で発表・共有)					
	4	1日目 設定保育の実践及びシミュレーション(クラス内で発表・共有)				2日目に発表するメンバーは、1日目の発表の状況から準備内容を見直して修正すること	
	5	2日目 設定保育の発表の準備(各自でまとめる)					
	6	2日目 設定保育の実践及びシミュレーション(クラス内で発表・共有)					
	7	2日目 設定保育の実践及びシミュレーション(クラス内で発表・共有)					
	8	2日目 クラス内の発表内容の共有と保育実習(単位実習)に向けての準備				事前実習における自身の課題を明確にするとともに、単位実習や今後の日常生活における課題解決にむけての方向性を明確にする。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	振り返りの発表	○			◎		50%
	レポート	○			◎		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	幼児体育SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	西門哲也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	社会福祉科2年生						
授業概要	幼児の運動あそびの必要性を知るとともに、発達・能力を把握する。また、運動あそびの展開及び運動の補助、安全管理や体育指導を身につける。「幼児体育」の授業で培った内容をもとに、実際の「運動会」を想定した計画とシミュレーションを行い、その中から幼児との関わりや留意点についての学びを深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					子どもたちの安全性を最優先事項とし、他学科・グループにて議論した上で計画を立案することができる。	
		○				各年齢における発達・能力を把握した上で、その状況に応じた骨子案を計画することができる。	
				○		積極的に協力することで、実際の運動会に向けての運営を実践することができる。	
			○			他グループが運営する競技に子どもに扮して模擬的に参加することで、実際の状況に沿った体験を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	近畿大学・「幼児体育」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 アイスブレイキング、模擬運動会の計画・準備			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	2	1日目 模擬運動会の計画・準備			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	3	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	4	1日目 模擬運動会の計画・準備(リハーサル)			年齢別に分けた各グループで発達段階に沿った競技の骨子案を検討する。		
	5	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対する修正を加えた内容での計画の実践を試みる。		
	6	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対する修正を加えた内容での計画の実践を試みる。		
	7	2日目 模擬運動会の実践(1日目の計画・準備に沿って)			1日目の骨子案に対する修正を加えた内容での計画の実践を試みる。		
	8	2日目 模擬運動会の実践に対する振り返り					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品・演技			○	◎		70%
	グループでの協力状況				◎		30%
履修上の注意	①遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						